

【R7年度】重点目標の取組・概要（待機児童対策及び保育環境の充実[教育・保育施設運営支援事業、保育所等運営事業]）

担当課（内線）	子育て施設課（内線2767）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

現状と課題

- 本市では待機児童の解消を図るため、保育量の確保に向け取り組んできた（幼保再編、保育士確保策等）が、解消には至っていない。

区分	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
待機児童数	16人	25人	27人	6人

- 国の動向を踏まえつつ、待機児童の早期解消を目指し、民間園と連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に取り組む必要がある。

R7年度の事業費（内訳）

- 新たに民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給
 - 応援特別給付金、就職サポート給付金：25,300千円
 - 就職祝い金：4,000千円
 - キャリアリターン一時金：1,000千円
- 働きやすい職場環境の実現に向けた民間園に対し、補助金を交付
 - 保育士休暇取得促進補助金：21,000千円
 - 保育補助者雇上強化事業費補助金：63,126千円
- 保育士の事務負担軽減のため、市立保育所等関連事務のDXを推進
 - 保育所業務支援システム：9,116千円
 - 保育所関連事務のDX化：462千円

※①②は「093300_教育・保育施設運営支援事業」 ③は「022900_保育所等運営事業」

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

- 【中期的(4～5年後)にめざす成果】
- 待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。
 - 「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。
- 【成果に向けての各年度の進め方】※①②は民間園、③は市立園が対象
- ①ア) イ) 保育士の確保に向けた補助の実施、養成校へのPR
 - ・「応援特別給付金、就職サポート給付金」
 - ・「就職祝い金」
 ウ) 潜在保育士の確保・保育の質の向上、広告媒体の活用
 - ・「キャリアリターン一時金」
 - ②ア) 保育士の休暇取得の促進
 - ・「保育士休暇取得促進補助金」
 イ) 保育補助者の雇上げ
 - ・「保育補助者雇上強化事業費補助金」
 - ③ア) イ) 関連事務のDXを推進し、事務負担を軽減
 - ・保育所業務支援システム
 - ・保育所関連事務のDX化
- 【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
- ①市内の民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給。
 - ②民間園に対し、働きやすい職場環境の実現に向けた取組を実施した場合、補助金を交付。
 - ③市立保育所等のDXを推進し、事務負担の軽減を図る。

R8年度以降の想定事業費（ランニング経費）

（単位：千円）

	R8	R9	R10	備考
①	33,610	33,610	33,610	
②	88,728	88,728	88,728	
③	10,627	10,627	10,627	
計	132,965	132,965	132,965	

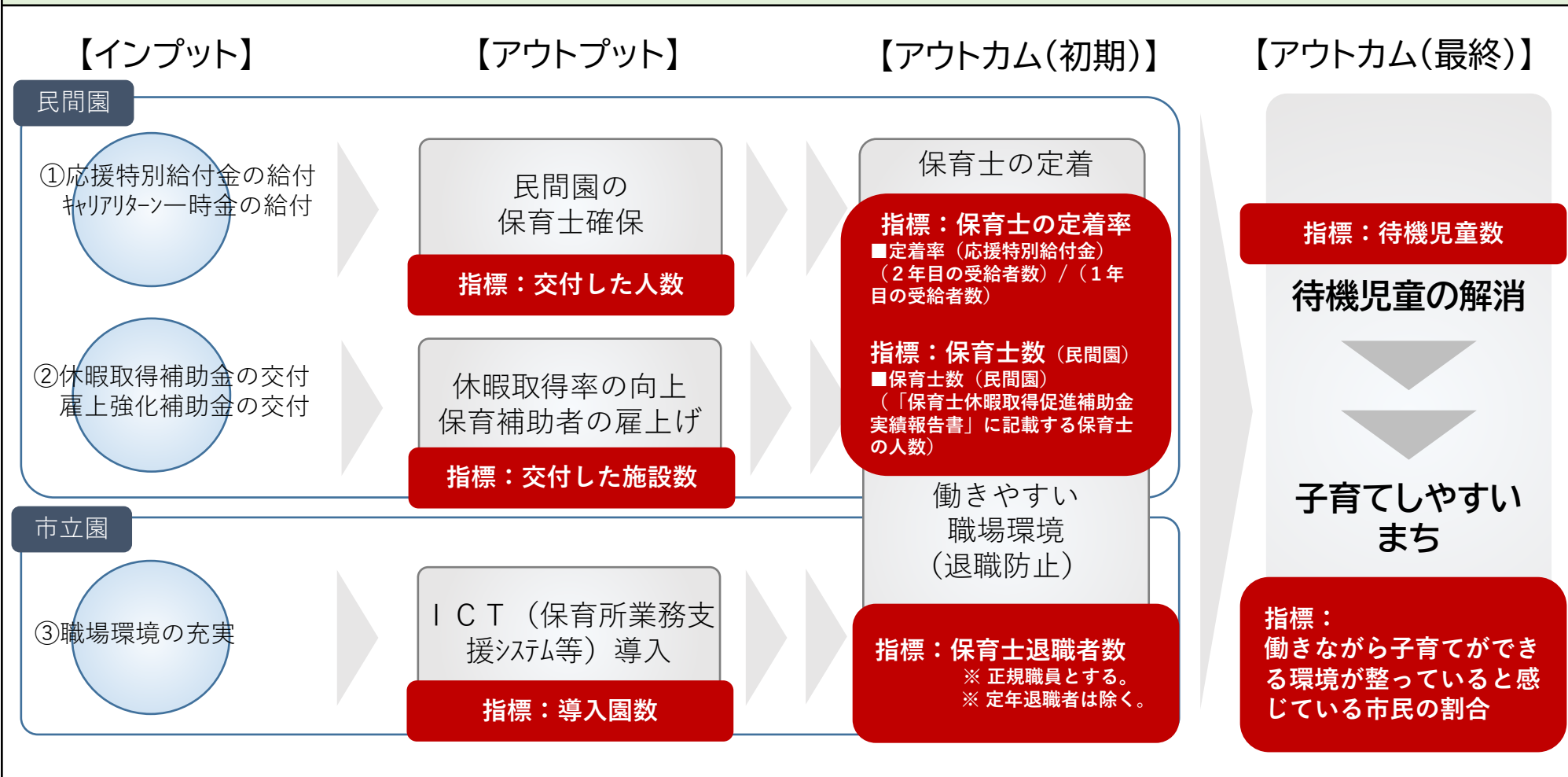
取組の進捗・成果を測る指標

- 保育所待機児童数（実績は4/1時点）
27名 [2023] 6名 [2024]
→ 0名 [2026]
- 働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合(目指す値)
15.9% [2023] →21.0%[2026]

成果・指標が未達成の場合の取扱い

- ①応援特別給付金、就職サポート給付金、就職祝い金
 - ・内容を見直し、期間を延長。
 - ・キャリアリターン一時金
 - ・実施3年を目途に効果検証。
- ②民間園への補助金
 - ・随時見直しを行い、事業効果の薄い補助金は廃止。
- ③市立保育所等関連事務のDX化
 - ・今後も推進し、事務負担を軽減。

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【財源】

- ・「保育補助者雇上強化事業費補助金」は、保育対策総合支援事業費補助金（保育補助者雇上強化事業）国：3/4
- ・「保育士応援特別給付金」「就職サポート給付金」「就職祝い金」「保育士休暇取得促進補助金」「保育所I C T」は一般財源。国・府の動向を見ながら財源確保を図る。
- ※ 保育所業務支援システム導入経費は、デジタル田園都市国家構想推進交付金（国費）を活用済。

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。
- 「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- 市内の民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給
 - 養成校、保育就職フェア等で周知活動
 - ⇒保育士応援特別給付金：13,930千円(のべ136人)
 - ⇒就職サポート給付金：4,400千円(22人)
 - ⇒就職祝い金：2,300千円(23人)
 - ⇒キャリアリターン一時金：100千円(1人)
- 民間園に対し、働きやすい職場環境の実現に向けた取組みを実施した場合、補助金を交付
 - ⇒保育士休暇取得促進補助金(30施設のうち29施設)
 - ⇒雇上強化事業費補助金(30施設のうち21施設)
- 市立保育所等のDXを推進し、事務負担を軽減
 - ⇒人事勤怠システムの導入(全施設)
 - ⇒登降園管理システムの導入(全施設)
 - ⇒市立認定こども園の新設

■ R7年度における達成度(当初の実施予定に対する達成度)



- 保育士の確保に向けた補助の実施、養成校へのPR
- 潜在保育士の確保・保育の質の向上、広告媒体の活用
- 保育士の休暇取得の促進
- 保育補助者の雇上げ
- 関連事務のDXを推進し、事務負担を軽減

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値(年次)	目標値(年次)	R7年度実績値
○	保育所待機児童数	人	27(R5.4.1)	0(R9.4.1以降)	2(R7.4.1)
○	働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合	%	15.9(R5)	21.0(R8)	17.3
○	保育士の定着率	%	-	-	88.4
○	保育士数(民間園)	人	-	-	495
○	保育士の退職者数	人	16(R4年度末)	-	11(R7年度末)

■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- 市のホームページ、Instagram、チラシ、保育士専門サイト等を活用し、保育士募集に関する広報活動を行ったが、大幅な職員採用に繋がらなかった。
- 公立園では、早朝・夕方の時間帯、土曜日に勤務可能な職員の募集を行ったが、保育士の確保が十分でなく、働きやすい職場環境づくりに繋がらなかった。



■ 課題分析

- 広報活動は成果が見えにくいものの、ホームページ、保育士専門サイトからの申込みが多くなりつつある。
⇒効果的な広報活動に取り組む必要がある。
- 少子化の中、養成校でも保育士を目指す学生が減少しており、保育士確保は、引き続き厳しい状況である。
⇒潜在保育士の掘り起こしが課題である。
⇒働きやすい職場環境づくりが必要である。



■ ロジックモデルの振り返り

- 幼保再編、大規模改修等により、保育量の確保が進んだことから、待機児童が減少している。
- 待機児童の解消に向けて、保育士の確保は不可欠であることから、引き続き保育士の確保・定着につながるよう、様々な方策を講じていく。
- 「働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合」が少しずつではあるが、向上している。
⇒子育て環境の充実に向け、引き続き取り組み、目標の達成を目指す。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- 保育士の確保及び定着に向け、効果的な取り組みを行っていく。
⇒民間園に対し、保育士の確保対策・定着支援に向けた補助金を交付する。
⇒市立園は、働きやすい職場環境の改善に努める。
⇒これらの取り組みを実施し、待機児童の解消を図る。
- 上記の取り組みを実施しつつ、国・府の動向を注視しながら、ロジックモデルのアウトカムの実現を目指す。